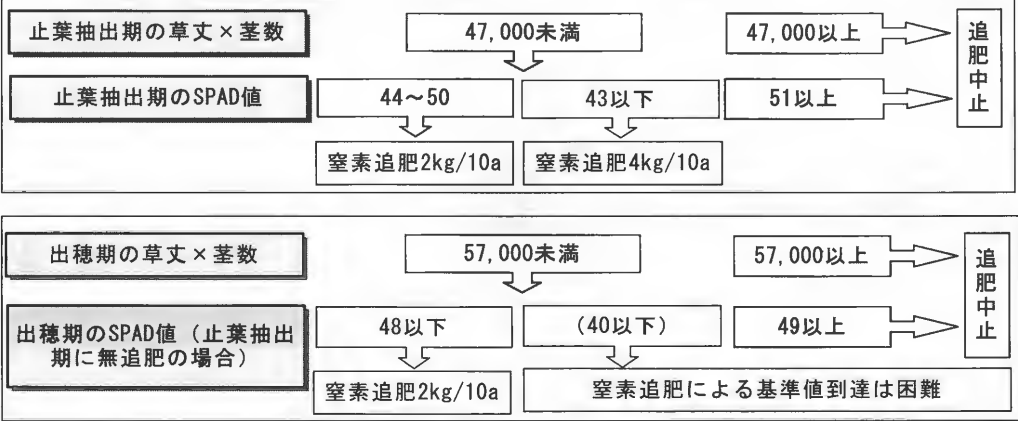


事項	小麦「ネバリゴシ」のタンパク質含量を高めるための追肥は葉色値（SPAD値）で判断できる		
ねらい	日本めん用小麦の品質評価基準が平成19年産から改訂されることになり、平成17年度に供した小麦タンパク質含量を高めるための葉色値による追肥の判断方法を、新基準（原粒タンパク質含量9.7～11.3%）に合わせた方法に見直したので参考に供する。		
指導参考内容	<p>1 追肥の要否及び追肥量の判断基準（葉色はミノルタSPAD502で測定）</p> <p>(1) 止葉抽出期（5月上旬頃）の追肥</p> <p>ア 止葉抽出期の草丈×莖数（cm・本/m²）が47,000以上の場合は追肥を中止する。</p> <p>イ 止葉抽出期のSPAD値44～50では窒素2kg/10a追肥</p> <p>ウ 止葉抽出期のSPAD値43以下では窒素4kg/10a追肥</p> <p>(2) 止葉抽出期に追肥しなかった場合の出穂期（5月中旬頃）の追肥</p> <p>ア 出穂期の草丈×莖数（cm・本/m²）が57,000以上の場合は追肥を中止する。</p> <p>イ 出穂期SPAD値が48以下では窒素2kg/10a追肥 但し、40以下になるほ場では、基準値に到達できない可能性が高い。</p> <p>追肥の判断基準</p>  <p>（注）追肥に用いる肥料は硫安、尿素など速効性肥料</p>		
期待される効果	小麦のタンパク質含量を新ランク区分の適正範囲に調節でき、小麦の品質向上と安定生産に寄与する。		
利用上の注意事項	<p>1 湿害による生育不良や立枯病の発生しているほ場には適用できないので、排水条件の改善や連作の回避に努める。</p> <p>2 幼穂形成期に4kg/10aを超えて追肥したり、幼穂形成期以降の止葉抽出期前に遅れて追肥した場合は、止葉抽出期や出穂期の葉色値を高めるのでこの基準は適用できない。</p> <p>3 基準の追肥量を超えて追肥した場合は、倒伏したり落等する場合がある。</p> <p>4 砂質土壌での栽培には適用できない。</p>		
担当部署（担当者名）	青森県農林総合研究センター 水田利用部 （西澤登志樹、工藤忠之、渡邊智雄）	対象地域	県下全域
発表文献等	平成14年度 青森県農業試験場試験成績概要集 平成16～18年度 青森県農林総合研究センター試験成績概要集		

【根拠となった主要な試験結果】

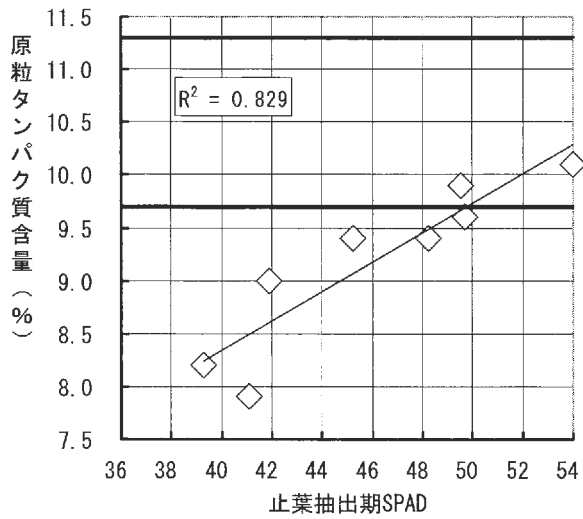


図1 止葉抽出期以降無追肥の
止葉抽出期SPAD値とタンパク質含量
(平成16～18年 青森農林総研)

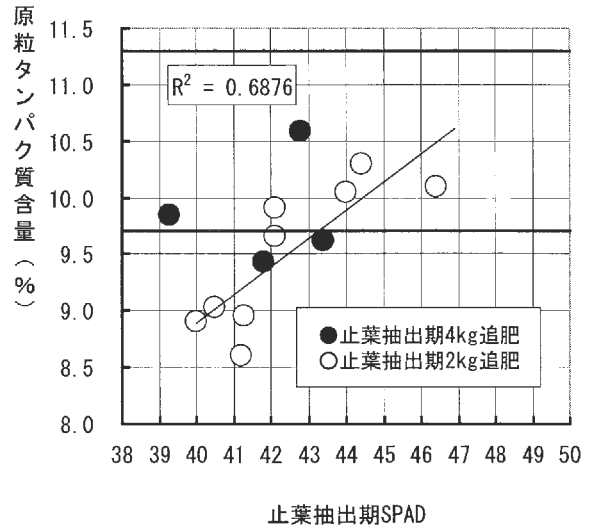


図2 止葉抽出期追肥量別の
止葉抽出期SPAD値とタンパク質含量
(平成16～18年 青森農林総研)

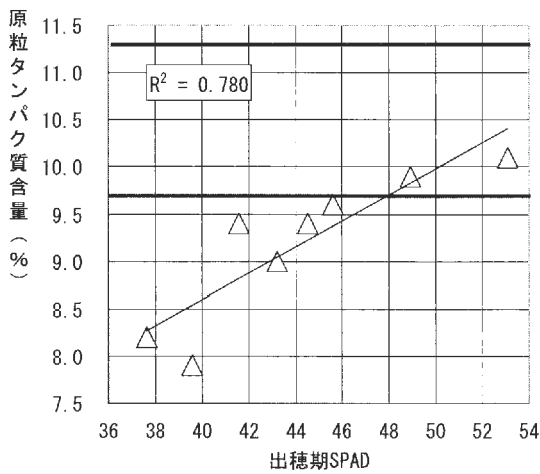


図3 止葉抽出期以降無追肥の
出穂期SPAD値とタンパク質含量
(平成16～18年 青森農林総研)

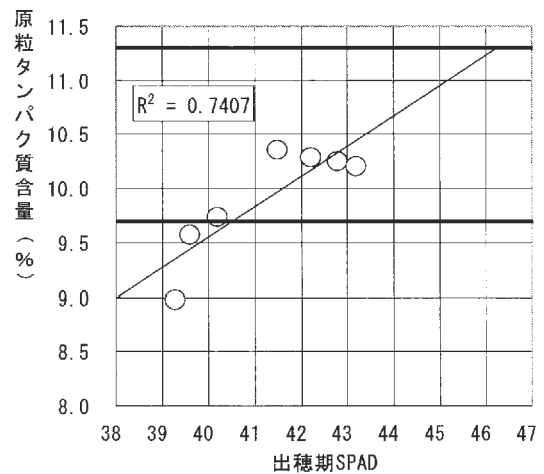


図4 出穂期2kg追肥の
出穂期SPAD値とタンパク質含量
(平成14年 青森農試、16、18年 青森農林総研)

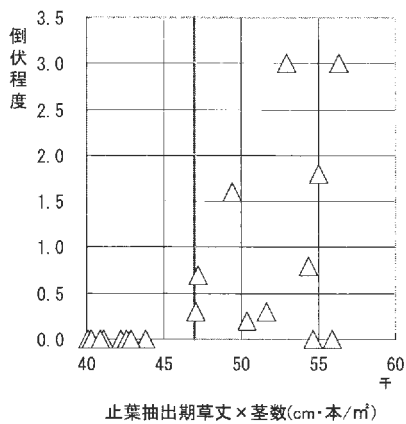


図5 止葉抽出期の生育と倒伏程度
(平成16年 青森農林総研)

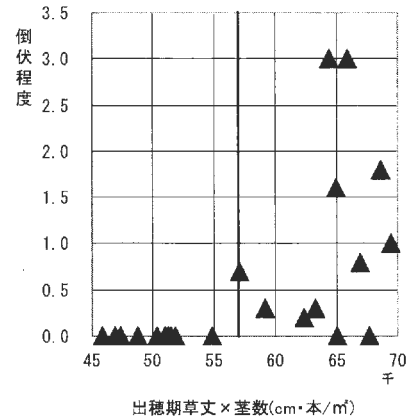


図6 出穂期の生育と倒伏程度
(平成16年 青森農林総研)